

# HEAD LIGHT REFORMER



光量不足  
コンプレックス?  
?

2液性ポリカーボネート用クリア塗料

## レンズ補修 スプレー

ヘッドライト・リフォーマー  
スプレーN

EC001 NET 180ml

高耐久  
長期間保護

プライマーレス

どこでも簡単  
スプレー式

# ヘッドライト・リフォーマーで蘇る 新車のような輝き!!

ヘッドライト表面を出荷時のようなクリアな状態にまでが復元可能です。  
専用の2液硬化型塗料で【塗装する】ので光沢感が長期間持続します。



## 作業手順解説



### STEP 1 下準備

劣化してしまったコーティング皮膜を研磨作業で徹底除去。  
ざらつきの原因である小傷などもきれいに研磨し、しっかり下地を  
整形します。



### STEP 2 塗装

ボディに付着しないようしっかりとマスキング作業を実施。  
ヘッドライト専用開発された特殊なクリア塗料の状態を確認し  
ながら慎重に、均一に塗装しています。



### STEP 3 作業完了!

塗膜の初期乾燥が完了すれば新車のようなクリアなヘッドライト  
の完成です。透明感も復活しあなたの愛車のヘッドライトをしっ  
かり保護します。

# ヘッドライト・リフォーマーの超耐久の秘密！！

コーティング剤とは比較にならない「分厚い塗膜」！！

1～5ミクロン程  
度

30～50ミクロン程度  
(メーカー出荷時と同等)

ヘッドライト表面

ヘッドライト表面

一般的なヘッドライトコーティング

ヘッドライト・リフォーマー

ポイント

塗装なのでヘッドライトをしっかりした厚みの膜で保護することができます。

商品名	ヘッドライト・リフォーマー・スプレーN
品番	EC001
内容量	180ml
サイズ	210mm x 72mm x 72mm
使用目安	1缶で普通車サイズヘッドライト1台分 ※2液混合の使用期限は、8時間となります。
施工時間	約3時間～4時間程度



ネジ式2液混合缶採用  
使い切りエアゾール仕様

作業工程の動画は  
こちら➡



# ヘッドライト・リフォーマー よくある質問

## Q1.おおよその作業時間はどのくらいですか？

作業時間は、手作業の場合左右のレンズ両方の補修をして3~4時間程度が標準的です。(ただし、気温や湿度により乾燥時間は変わります)

## Q2.耐久性はどのくらいですか？

ヘッドライト・リフォーマーは2液性樹脂塗料です。これは新車時のヘッドライトレンズに施されているハードコートとほぼ同等のものです。補修する場合、レンズ素材のポリカーボネートの経年劣化状況に左右されますが、ヘッドライトリフォーマーの塗膜だけであれば、新車時に匹敵する強さがあります。

## Q3.スプレーすれば、透明感が復元しますか？

ヘッドライト・リフォーマーはクリーナーではありません。レンズの白濁や黄変を取る効果は全くありません。サンドペーパー等で除去した後に、ヘッドライト・リフォーマーをお使いください。

## Q4.サンドペーパーは全部使わないとダメですか？

標準的な補修方法では、研磨作業はサンドペーパーの320番から始めます。白濁やくもりがごく軽度の場合は、サンドペーパーの1000番から研磨します。詳しくは商品本体の使用説明をご覧ください。

## Q5.店頭で見かけるヘッドライト磨きとは違うのですか？

数多く販売されているヘッドライト磨き等はコーティング剤と呼ばれているものがほとんどです。ヘッドライト・リフォーマーはペイント(塗料)です。自動車のボディで考えて頂けるとわかりやすいと思います。日頃のメンテナンスではWAXやコーティング剤を使いますが、変色してしまったり、キズがひどい時には、補修用のペイントで補修します。ヘッドライトも同様です。ヘッドライト磨きで磨いても、またすぐに、くもってしまう場合などはヘッドライト・リフォーマーによる補修が最適です。

## Q6.ヘッドライトレンズをサンドペーパーで削って大丈夫ですか？

320番以降の番手のサンドペーパーであれば大丈夫です。標準的な補修方法では320番のサンドペーパーの白濁や黄変をきれいに取り除き、その後ペーパーの磨きキズを消すために、サンドペーパーの番手を細かくしながら、磨いていきます。磨き作業の仕上げにコンパウンドでほぼ透明にした上に、ヘッドライト・リフォーマーで塗装します。ヘッドライト・リフォーマーの膜厚は標準的な補修方法の場合、30~50ミクロンとなりますので、磨きで残った微細なキズを埋めて「奥ゆきのある輝き」を取り戻します。

## Q7.ヘッドライトリフォーマーで補修する時に必要なものはありますか？

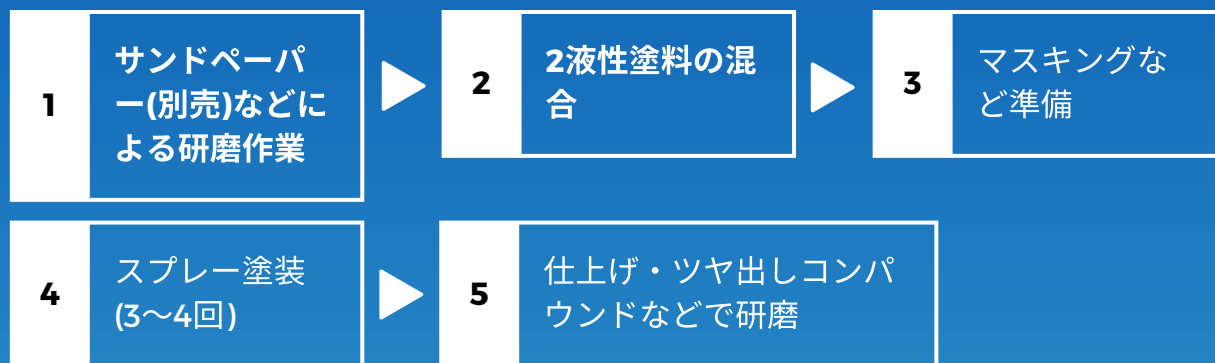
サンドペーパー(320~2000番)、マスキングテープ、コンパウンド ノンシリコンタイプ(細目、極細)などが必要です。詳しくは商品本体の使用説明をご覧ください。

## ヘッドライト樹脂レンズ補修塗料

# ヘッドライト・リフォーマー・スプレーN

本製品は、劣化（黄ばみや白濁）したヘッドライト樹脂を研磨、除去した後、新車時同様のハードコートを施工する為に開発された商品です。通常のツヤ出し剤や表面コート剤とは、異なり**硬化後は研磨作業以外の除去はできませんので、ご注意ください。**

### 作業のおおまかな工程



### 1.みがき作業

用意するものサンドペーパー

(320,400,600,800,1000,1200,1500,2000番)、コンパウンド(細目、極細)、ウェス、みがき用パッドなど

☆黄ばみや白濁がうすい場合は、1000番から順に磨いてください。

☆黄ばみやキズによる白濁は、みがき作業時に完全に除去してください。(塗装作業では回復しません。)

①ヘッドライト樹脂レンズをサンドペーパーで磨きます。まず200番のペーパーで磨き、キズや黄ばみ、白濁を消します。次に400番のペーパーでレンズ全体を磨き、旧塗膜を完全に除去してください。

②さらに600番→800番→1000番→1200番→1500番→2000番とサンドペーパーの番手を変えて順に磨いてください。

③次にコンパウンドの細目→極細の順に磨き、ペーパー目が消え、透明感が得られるまで磨いてください。

④塗装面のホコリ、汚れを中性洗剤等(油分、シリコンを含まない洗剤)で洗い、よく乾燥させてください。

●旧塗膜が残っていると、密着不良やチヂミの原因となります。確実に表面を磨いてください。

### 2.塗料の混合方法



### 3. マスキングなどの準備

用意するもの マスキングテープ、新聞紙など

○ヘッドライト樹脂パーツ以外の部分には、塗料が付着しないよう、広めに車体や周囲をマスキングしてください。

●通常塗料より、密着力が強いので、補修箇所以外の付着には、十分ご注意ください。

### 4. スプレー塗装

用意するもの マスク、ゴーグルなど

○マスクをして塗料やガスを吸い込まないようにしてください。直接皮膚に付着しないよう、手袋を着用し、皮膚の露出が少ない服装で作業してください。

○メガネをご使用の方は、付着の恐れがあるので、ゴーグル等を着用してください。

●周囲の人や他の物にかからないように作業場所と十分な距離をあけ、風向きに注意してください。

①塗装面より、20cm～30cmはなして、スプレーを平行に動かしながら、ヘッドライト樹脂パーツの表面全体にスプレーしてください。

②全体を薄めに、10分間隔程度で、3～4回に分けてスプレーするときれいに仕上がります。

③噴射口(水色部分)を90度回すと噴射パターンがタテ楕円かたヨコ楕円に変わります。塗る面や形に合わせて使い分けください。

### 5. 仕上げ・ツヤだし

用意するもの サンドペーパー(1500,2000番)、コンパウンド(細目、極細)、ウェスなど

☆塗装面にざらつきなどがある場合は、完全乾燥後に仕上げ作業を行ってください。

①サンドペーパーに水を十分につけて磨きます。1500→2000番の順で軽く磨いてください。

②次にコンパウンドで磨きます。細目→極細目の順にペーパーのキズが消えるまで磨いてください。

### 作業場の注意

●塗装間隔が長い場合は、目詰まり防止のため、缶を逆さまにして1～2秒空吹きし、噴射口をよく拭いてください。

●使い終わった用具などは、初期硬化(約30分以内)する前にラッカーうすめ液で洗ってください。

## その他注意事項

- 劣化が著しいレンズやひび割れがあるレンズには使用できません。作業前によく確認してください。
- 塗装前のコンパウンド仕上げには、ツヤだし成分(シリコン等)が入っていないコンパウンドをお使いください。
- 塗装時に飛散した塗料の付着を避けるため、周囲との間隔は、できるだけ広く空けてください。
- ヘッドライトリフォーマーは、**一度硬化すると新車時のヘッドライトコーティング塗料と同様に研磨する以外に除去する方法はありません！**使用方法に従い、レンズをきれいに磨いてから、塗装してください。
- 硬化前であれば、ラッカーうすめ液で除去することが可能です。ボディや器具等に付着した場合は硬化前に除去してください。ただし、**レンズの素材(ポリカーボネイト)は、大変に溶剤に弱い為、ラッカーうすめ液等による除去作業は絶対にしないでください。**レンズの塗装を修正する場合は、完全硬化後に研磨してください。
- ヘッドライトリフォーマーは一度に厚塗りしようとせず、**必ず「薄く塗って硬化を待つ」ことを数回繰り返してください。**特に塗り始めは、塗装面との距離を離しぎみに、スプレーのキリがフワッとレンズにかかりムラなく曇る程度に薄く塗ります。乾燥時間を長め(気温20℃以上の場合10分～20分)に取り、確実に硬化させます。同じ作業を3回程度繰り返して表面を固めてしまいます。この時点ではレンズ表面が曇っていて透明感がなくてもムラなく全体的に同じように濡れていればOKです。次に本塗装。透明になるまで2～3回(気温20℃以上の場合10分～20分間隔)に分けて、塗り重ねていきます。塗り重ねていくうちに光沢と透明度が増していきます。仕上げを焦る気持ちはわかりますが、厚塗りは『ヒビ割れ』の原因となりますのでしないでください。

## 冬季(低温時)の作業で気を付けること

- 気温が5℃以下の場合には作業しないでください。
- 気温の低めの時(15℃以下程度)は、スプレーした後の乾燥時間を長め(30分～60分)に取ってください。
- 気温が低めの際は、暖房等で作業場を温めるか、ヒーター等でレンズを人肌程度に温めながら作業することをおすすめします。レンズを温める場合には、人肌程度以上に温めすぎないようにご注意ください。
- 表面が硬化する前に露や霜等の水分が付着すると、白濁する恐れがあります。ご注意ください。

## 夏季(高温・多湿時)の使用で気を付けること

- 気温35℃以上や湿度85%以上の時には作業しないでください。
- 湿度が高い場合には、水分を吸って白濁する場合があります。